

令和 8 年度 県立土浦第一高等学校（定時制） 自己評価表

目指す学校像				
生 徒		・自ら考えて主体的に行動し、自ら課題を発見・解決する生徒の育成を目指す。 ・幸せな未来を創造するために、多様性を受容して他者と協働できる生徒の育成を目指す。 ・自らの将来像を明確に意識し、果敢に挑戦する生徒の育成を目指す。		
教 員		・探究心をもって研究と修養に励み、自己の資質・能力向上を目指して学び続ける教員を目指す。 ・教育D Xによる、業務の効率化及び教科指導の資の向上を図ることができる教員を目指す。 ・生徒が希望する進路を実現できるように、キャリア教育を組織的・継続的に支援する教員を目指す。		
学 校		・生徒一人一人の人間力の育成と進路目標を達成する学校を目指す。 ・生徒の思考力・判断力・表現力を高める探究学習の実践と、主体的な進路選択及び将来設計を支援するキャリア教育の充実を目指す。 ・生徒の安心・安全を守るため、コンプライアンス、危機管理、いじめなどについての適切な対応の徹底を目指す。 ・保護者、同窓生、地域、関係諸機関等との連携を強化し、よりよい教育環境の整備を目指す。		
三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポ リシー)	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	・自ら考え、行動を起こし、新たな価値を生み出していく精神（アントレプレナーシップ）をもつ生徒 ・健康管理、身だしなみの管理、時間管理などセルフマネジメントができ、多様性を受容し、他者と協働して課題解決に努める生徒 ・自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく力（エージェンシー）を高め、将来の目標を見据えて、失敗を恐れ ず挑戦し続ける生徒		
	「教育課程の編成及び実施に関す る方針」 (カリキュラム・ポリシー)	・創意工夫を生かした質の高い学習指導及び評価（考査・観点別評価）を実施し、 確かな学力 （基礎的・基本的な「知識や技能」に加え て、「学ぶ意欲」や「思考力・判断力・表現力等」を含めた幅広い学力）を育成する。 ・主体的に学校行事、生徒会活動・ホームルーム活動、部活動等を通して、「 自主、協同、責任 」の 精神と感謝・報恩の精神 を育成する。 ・探究的キャリア教育、心を開くグループワークなどを通して、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成する。		
	「育成を目指す資質・能力に関す る方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	・よりよい未来社会を創造するために自ら課題を発見し、多様な他者と協働して解決できる力の育成 ・生涯を通じて自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく資質・能力の育成 ・実社会で活躍し、地域に貢献できる能力を身につけ、一社会人として求められる責任感と行動力を備えた人材の育成		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
「重点目標」「具体的方策」の各評価項目におい て、いずれの分野においても適切かつ妥当な評 価を得ている。 今年度の本校教育活動の一層の充実を図るた めの課題は、以下の通りである。 ・基礎学力定着と分かる授業の展開 ・進路指導の充実 ・基本的生活習慣の確立		1 主体的・対話的で深い学びを実現し、思考力・ 判断力・表現力を高めるための授業改善	①社会人として備えるべき知識・学力の獲得へ向けた質の高い、内容の 濃い授業実践 ②生徒による授業満足度（K P I）3.5 以上	
		2 生徒一人一人の希望進路を実現するための組 織的・系統的なキャリア教育の推進	③探究的キャリア教育をはじめとする行事活動の充実 ④生徒一人一人の進路希望の実現と大学進学者の更なる増加	
		3 自主的・自立的態度及び豊かな人間性を育成 するための学校行事、部活動等の充実	⑤生徒の学校行事、部活動等への主体的な参画 ⑥行事活動を通じた課題発見	
		4 保護者や地域の理解と信頼を深めるための教	⑦保護者や地域との連携・協働	

別紙様式 2 (高)

・生徒理解の充実 ・学校情報の積極的発信 ・働き方改革の推進		育活動の積極的な情報発信	⑧教育活動の積極的な情報発信	
		5 教職員の資質・能力の向上実現に資する業務改善と職場環境づくりの促進	⑨セルフマネジメントとコンプライアンス遵守 ⑩教育D Xによる業務の効率化及び適正化	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教科指導	基礎学力の定着を図る。	生徒個々の現状及び能力を把握し、必要に応じて適切な声かけやサポートを行う。①②		
		授業等における生徒の観察、応答を通して、理解度や達成度を把握しながら「読み」・「書き」・「計算」などの基礎学力の定着に努める。①②④		
	個に応じた指導の充実を図る。	生徒の幅広い進路ニーズに応えるため、個別指導等の充実を努める。①②④		
		小テスト等を実施し、生徒の理解度・到達度の把握に努め、基礎学力の向上を図る。①②④		
教科	国語	基礎学力及び学習意欲の向上に努める。	基礎的な漢字の読み書き、熟語、ことわざなど、語彙力の向上に努める。①④	
			生徒の興味・関心や共感のもてる教材を選択し、生徒が主体的に参加する授業を展開する。①②	
		コミュニケーション能力の向上を図る。	ペアワークやグループワークを多用し、生徒が自身の考えを互いに伝え、尊重し合うべく授業の展開を工夫する。①②③	
	地歴 公民	基礎学力の定着に努める。	毎時間教科書の内容を分かりやすくまとめたプリントを作成し、記入・提出させる。①②	
			提出物は必ず評価し、返却する。書く習慣を身につけさせ基礎学力の向上を図る。①②④	
		学習意欲の向上を目指す。	授業における多様な観点から生徒を高く評価し、承認することで生徒の学習意欲を引き出す。②	
			学習内容を生徒自身に関連づけして考えることができるよう授業内容を工夫する。①②	
	数学	基礎学力の向上と発展を図る。	基礎・基本事項の習得に向け、十分な時間をかけて指導する。①②④	
			学習意欲を喚起し、発展的な内容に挑みたい生徒に対応するため、発展プリントなどを用いて指導する。①②④	
		学習内容の定着とプレゼンテーション能力を図る。	課題や提出物等を定期的に点検し、評価をすることで、生徒自身の振り返りに役立てる。①②	
			授業や課外等を通して、自ら課題を解決し、発表する能力を養う。①③	
	理科	基礎学力、生活上の課題解決能力を身につける。	実演やI C T等の可視化した教材を用いて、身近なものや日々の生活と関連づけた授業を展開する。①②	
			ノート（振り返り）・プリント提出をこまめに行い、基礎学力の定着を図る。①②④	
		協働性を高める。	ペアワークやグループワーク、実験を通して、他者とコミュニケーションを図りながら自己の役割を果たす経験を積む。②③	
	保健 体育	生徒の実態を踏まえた指導計画の充実を図る。	年齢層等に幅のある定時制の生徒の実践を踏まえた調和のとれた弾力的な年間計画にする。①②	
			生徒が運動の楽しさや達成感を味わうことのできる指導計画を図る。①②	
			保健学習における内容の重点化を図り、単元指導計画の工夫・改善を行う。①②	
			互いに協力し、練習やゲームを通して体力・能力を高め、生涯体育に繋げるとともに、コミュ	

別紙様式 2 (高)

		豊かなスポーツライフの実現を図る。	ニケーション能力を高める。①②⑤			
			学習の効率や安全性を高める集団行動の指導を徹底する。①			
		健康な生活への実践力を培う。	課題学習やライフスキル教育等、多様な体験的、実践的学習方法の活用や受け身にさせない自主的・自発的学習を促進する。①⑤⑥			
	美術	幅広い活動を通して、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成し、生涯にわたり美術を愛好する心情と豊かな情操を育む。	生徒の実態に沿った課題選択を行い、一人一人の個性や感性に沿った個別指導を充実させる。①②⑥			
			相互鑑賞等を通して、他者の考えや表現に共感する鑑賞の能力を高めるとともに、自己表現の意図を他者に分かりやすく伝える発表の能力やコミュニケーション能力を向上させる。①②⑥			
			生徒自らが工夫した表現活動や相互鑑賞などにより豊かな心情を育て、美術の諸能力の向上を図る。①②⑥			
	英語	基礎学力の向上に努める。	I C T機器を活用し、効果的な映像等を使いながら授業の中で英語表現を覚えさせる。①②④⑩			
			ノート等を定期的に点検し、生徒たちの授業への取組の改善を図る。①②④			
		オーラルコミュニケーションの活用にも努める。	アクティブラーニングを取り入れ、グループワークなどを活用し、思考力・判断力・表現力を養う授業を積極的に行う。①②③④⑥			
			授業時における生徒相互のペアやグループでの会話において、英語を積極的に使用させる。①②④			
			A L Tを活用した実践的なオーラルコミュニケーションと多文化理解を推進する。①②⑤			
	家庭	生活課題を解決するために必要な知識と技術を習得する。	授業において学習した知識や技術を活かし、家庭生活における課題を解決する力を育成する。①②③			
			技術の習得について、生徒一人一人の能力にあった個別指導の充実にも努める。①②⑥			
	情報	基礎学力の向上を図り、I C Tを活用する能力を身につけさせる。	情報と情報技術に関する問題に対して、主体的に対応できる力と姿勢を育成する。①②⑥			
			パソコンに関する基本的な知識や操作の定着を図る。①②④			
	商業	基礎学力の向上を図る。	基本的な内容を理解し、実生活に役立つ力を身につけるよう学力の定着を図る。①②			
			課題学習の内容を精選し、教材や指導方法の工夫をする。①②			
			ビジネスの仕組みや経済活動の在り様を理解し、社会人としてあるべき姿について、考えさせ、身につけさせる。①②⑥			
教務		I C Tの活用を含めた授業の質の向上と授業時間確保に努める。	I C Tを活用した教育活動を促進し、効果的に授業等に活用することで授業の質の向上を図る。①②⑩			
			授業開始・終了時刻の厳守、教科・科目の授業時数の確保に努める。①②			
		探究活動の推進を図る。	総合的な探究の時間の推進・充実を図るため、教材等を十分に検討する。③⑤			

別紙様式 2 (高)

	教員研修の推進に努める。	I C Tをはじめ、様々な研修を実施し、指導法への活用とともに教員自らの働き方への意識改革に努める。①②⑨⑩			
	学校情報を積極的に発信する。	ホームページをこまめに更新するとともに、中学校訪問等を充実させる。⑦⑧			
	P T A活動の充実を図る。	保護者・P T A役員との意思疎通・連携を図る。⑦⑧			
	アルバイトを奨励する。	アルバイトを奨励し、アルバイト 90 日助成を行う。①③④⑤			
特別活動	学校行事等を積極的に行い、生徒会活動の充実に努める。	生徒会を中心に生徒主体の行事を実施し、自治的精神を涵養する。⑤⑥			
		学校行事等で人間関係形成・社会形成能力の育成を図るとともに、継続的な生徒会活動を充実させ、生徒が主体的に取り組めるようにする。⑤⑥			
生徒支援	課題を明確にした指導体制の充実に努める。	巡回・巡視活動を通して、問題行動等の未然防止と解消を図る。⑥⑦			
	連携・協力して問題を解決する体制づくりの充実に努める。	孤立傾向にある生徒への積極的な声かけやサポートを心がける。⑥⑦			
		教職員間、学校と家庭、地域社会、関係機関との情報交換の推進と協力連携によって、いじめや不登校、中途退学や暴力行為等の問題を早期発見、未然防止の強化を図る。⑦			
進路指導	個に応じた多様な進路指導の充実に努める。	進路説明会・就職指導の実施：全校生徒を対象に就職・進学などの進路に応じ、説明会を実施する。面接の練習など、きめの細かい就職指導をする。③④			
		具体的進路実現に向けた支援：個々の生徒の進路実現をより具体的に把握し、ホームルーム担任と連携し、その実現に努める。③④⑥			
保健給食	心身の健康に留意し、疾病予防と早期治療ができる能力を養う。	学校感染症の感染予防を徹底する。⑤⑥⑧			
		心身の悩みに関しては、素早く的確に相談・対応できる体制を維持する。⑦⑧			
		健康診断や保健だより等を通して、生徒へのアプローチ・啓蒙を図っていく。⑤⑥			
	学習環境の安全と衛生に努める。	清掃の徹底を心がけ、美化意識を高める。⑤ 避難経路を作成し、安全・迅速な防災訓練の実施をする。⑤⑥			
第 1 学年	定時制の生活へ早期転換の支援に努める。	オリエンテーション等を活用し、定時制について理解させ、生活リズムの早期の確立を促す。③			
		生活実態調査や生徒面談、保護者との密な連絡等を積極的に実施し、生徒の情報収集に努める。生徒一人一人の生活環境等を把握することで、生徒支援に活かす。⑥⑦			
	望ましい学級集団作りに努める。	生徒一人一人と積極的に関わり、生徒との好ましい人間関係をつくる。③⑤⑥			
		生徒一人一人の意見や考えを尊重し、協力し合う楽しく明るい活気ある学級集団づくりに努める。③⑤⑥			
	基本的な生活習慣の確立と豊かな人間性の育成を図る。	生徒相互のかかわり合いの中から思いやりの心を育成し、それとともにトラブルや葛藤、つまずき等を乗り越えるたくましい心を育てる。⑤⑥			
	規範意識や社会性の育成を図る。	社会人として自立するための知識や技能(挨拶・礼儀・マナー)を身に付けさせる。③⑤⑥			
第 2 学年	自己実現を図るための基礎学力の向上に努める。	定期考査等を有効活用し、努力することの大切さや必要性を理解させる。①			

別紙様式 2 (高)

	規範意識や社会性の育成を図る。	社会人として自立するための知識や技能（挨拶・礼儀・マナー）を身に付けさせる。③			
第 3 学年	自己の適性を見つめ、適切な進路選択を促す。	生徒が進路を自身で決定できるような自己肯定感につなげるため、十分な情報収集と環境を設定する。④⑥			
		進学希望者には、課外授業や面接等を進路指導部・各教科担任と連携し、丁寧に進路指導する。①④			
	規範遵守の意識や社会性の育成を図る。	社会人として自立するための知識や技能（挨拶・礼儀・マナー）を身に付けさせる。①⑥			
	自己肯定感を持ち自立支援を図る。	心理面での些細な変化も見逃さないよう観察及びメンタルケアに努める。①⑥			
第 4 学年	個々の適性に応じた進路指導の徹底と、社会的自立に向けた資質・能力の育成	個々の生徒の進路希望を具体的に把握し、進路指導部と緊密に連携しながら、希望進路の実現に向けて組織的に支援する。③④⑥			
		社会人として自立するために不可欠な知識・技能（挨拶、礼儀、マナー等）を、日常の指導を通じて確実に習得させる。③④			
	4 年間の学習成果による確実な卒業と、自己肯定感の向上	4 年間の学習の集大成として、これまでの学びを確実に単位修得に結びつけ、卒業要件を完全に充足できるよう指導を徹底する。④			
		4 年間継続して学び続けた努力を公平・正当に評価し、生徒自身の自信と自己肯定感の向上につなげる。③			
	学校行事への積極的な参画と、豊かな人間関係の構築	最上級生としての自覚を促し、学校行事や日常生活において下級生の模範となる態度を養う。多様な背景を持つ集団の中で、互いの個性を尊重し合いながら、円滑に意思疎通を図るコミュニケーション能力を育成する。③⑤⑥			
働き方改革	働き方改革への意識を高める	I C Tに関する研修を実施し、授業での資料等の効果的な提示の仕方を共有するなどして、業務の見える化を図り、働き方改革への意識を高める。⑩			
		常に自らのタイムマネジメントを意識し、勤務時間の管理徹底を図る。⑨			

評価基準：：[A、B、C、D、E の 5 段階で評価する]

A・・・十分達成できている

B・・・達成できている

C・・・概ね達成できている

D・・・不十分である

E・・・できていない